



33㎢、東京ドーム700個分もの広大な面積を有する渡良瀬遊水地には、「自然の博物館」と呼ばれるほどの豊かな生態系が形成されています。

その貴重な湿地環境が世界的に認められ、平成24年7月3日、渡良瀬遊水地はラムサール条約(※)湿地に登録されました。

※ラムサール条約：正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。生物多様性保全に関する地球規模の条約としてもっとも早期に採択されたものです。

渡良瀬遊水地の役割

治水

渡良瀬遊水地は上流で降った雨や洪水を一時的に貯め込むことで、下流に流れる水の量を調節しています。

令和元年東日本台風(台風第19号)では、約1億6,000万m³の水を貯め、過去最高貯水量を記録しました(貯水率95%)。周辺地域のみならず、首都圏における災害軽減の役割を果たしました。



利水

ハート型の湖「渡良瀬貯水池(通称：谷中湖)」は、平地型ダムならではの利点を活かし、首都圏に生活用水を供給しています。



①集水面積が大きい
流れ込む川を通して、上流部に降った雨も集めることができる。

②供給地まで近い
山間のダムから供給地である首都圏まで水を届けるのに2日かかるところ、約5時間で届けることができる。

渡良瀬遊水地の生物多様性

渡良瀬遊水地では絶滅危惧種を含む多くの動植物が暮らしています。

- ①野鳥：271種4亜種(絶滅危惧種58種)
- ②魚：約80種(絶滅危惧種22種)



▲コウノトリ (撮影：青木 章彦氏)



▼チュウヒ (撮影：真瀬 勝見氏)



▲オオセッカ (撮影：真瀬 勝見氏)



▼ギバチ (提供：アクリメーション振興財団)



▲ワタラセツリフネソウ



▼アゼオトギリ



▲オオリリハムシ (提供：アクリメーション振興財団)



▼チョウトンボ

④昆虫：約1,700種(絶滅危惧種71種)

渡良瀬遊水地イベント情報

「わたらせ熱気球day」

熱気球の係留飛行体験です。

日時 ①7月20日(日)
②9月21日(日)

いずれも6時～9時

※8月は熱中症の恐れがあるため不開催

場所 藤岡渡良瀬運動公園

定員 各回200人程度(先着順)

申込 事前予約制

QRコード

「熱気球グランドクルー体験会」

熱気球グランドクルー体験会を実施。

日時 わたらせ熱気球dayと同日。

いずれも5時30分～9時30分頃

場所 藤岡渡良瀬運動公園

申込 事前予約制

QRコード

「夏のわくわく大作戦！親子水辺教室」

植物観察とカヌー体験を行います。

日時 7月26日(土)

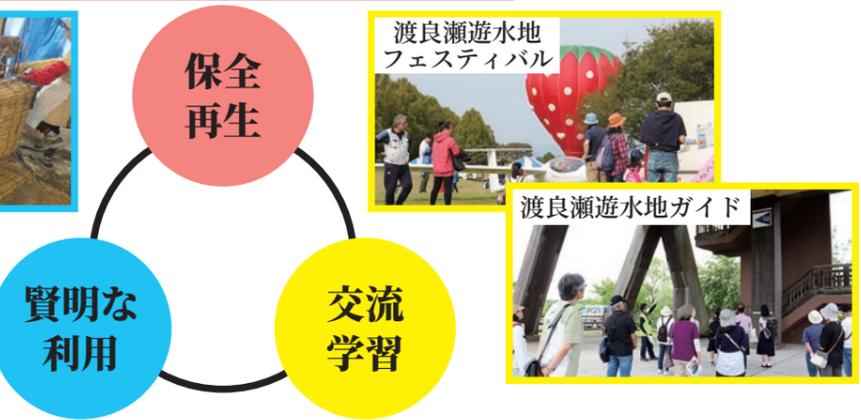
9時30分～12時

集合場所 谷中湖レンタサイクルセンター前

対象 小学生とその保護者

定員 32人(先着順)

申込 7月1日(火) 8時30分～
7月18日(金) 17時まで



水鳥の生息地としてだけでなく、私たちの生活を支える重要な生態系として、幅広く湿地の保全・再生を呼びかけています。

渡良瀬遊水地とラムサール条約

湿地は、多様な動植物が生育・生息するのに欠かせない場所です。また、農業・漁業・観光・水の共有・防災など、人々の生活に恵みをもたらしてくれる場所でもあります。渡良瀬遊水地では、ラムサール条約3つの柱である「**保全・再生**」「**賢明な利用**」「**交流・学習**」の考えに基づき、様々な取り組みが行われています。



ヨシ焼き 外来植物除去活動 クリーン作戦



よしづくり 熱気球 渡良瀬遊水地フェスティバル 渡良瀬遊水地ガイド



カヌー SUP(スタンドアップパドルボード) ヨシ細工体験 ぐるり旅

渡良瀬遊水地には校外学習などで子どもたちが多く訪れ、学びの場としても活用されています。遊水地の魅力を肌で感じながら取り組みに参加し、貴重な湿地環境を後世に引き継いでいきたいですね。